



道徳だより



能美市立寺井中学校

平成29年 11月 1日(水)

NO. 4

◆10月の道徳をふり返って…

心のテーマ：感動するところ

先日行われた合唱コンクールでは、どのクラスも練習の成果を発揮しすてきな歌声を響かせ、会場が感動に包まれました。大きな行事は終わりましたが、ここで学んだことを今後の日々の生活の中で生かしていきたいですね。さて、今回の道徳だよりでは、1年生と3年生の10月の道徳の実践の中から、その内容や感想などを紹介します。

◇1年生の実践

「カーテンの向こう」 D(22) 人間の強さと弱さ

とある病院の一室である。もう治る見込みもないであろう重症患者達がベッドを並べて横たわっている。その患者達は、何の変化もない辛い日々を送っている。消毒薬のにおいが室内の重苦しさを、一層暗いものにしていく。そのような生活の中で唯一の楽しみは、病室の閉ざされた窓に一番近いヤコブが、カーテンのほんの小さなすき間に顔を突っ込んで外の様子を眺め、それを話してくれることである。その話は他の患者達の生きる希望になっていた。

しかし、ヤコブしか外の世界を見られないことに対する不満を抱く一人である「私」は、いつしか自分が窓際のベッドに移るためにヤコブの死を願うようにさえなる。ついにヤコブは息を引き取り「私」はカーテンの外の景色を見ることが出来た。しかし、目にしたカーテンの向こうの景色は、なんと冷たいレンガの壁であった。

【生徒の感想】(一部抜粋)

- ぼくだったら、ヤコブのようにウソをついてでもまわりを楽しませていく。重苦しい空気を少しでも明るくできるようにしていきたいからです。
- ヤコブは周りのことを考えられる、とってもいい人なのだと分かった。
- 自分が「私」の立場だったら、ヤコブと同じことをすると思ったけど、真実を伝える派の人の話を聞いて、迷いが出ました。でもやっぱり、ヤコブさんはやさしい人だと思いました。
- ウソをつくというのは、ときには人をうれしい気持ちにするけど、悲しい気持ちにすることもある。真実を知った時に、本当のその人の気持ちがわかるんだと思った。
- みんなのことを考えているのであれば、ヤコブのようにみんなを楽しませるのも、事実を伝えるのもどちらでもいいかなと思った。
- 最初、ヤコブさんを最低だと思っていたけど、それも全て話を楽しみにしているみんなのためにやっていることなのだと分かって、場の雰囲気をよくしてくれるヤコブさんは、とってもいい人だと思いました。
- ヤコブさんは結果としてはウソをついたことになっているが、そのウソが必ずしも悪い方向だけとは限らないことが分かった。しかし、人を楽しませるためにウソをついても、人に恨まれたら意味がないし、恨まれたままなのでかわいそうだ。
- 自分だったら、何も見えないと正直に言います。ニコルみたいに悲しむ人が出ることはなくなるからです。
- 僕はヤコブがみんなのことを思って行動しているのが良いと思いました。「私」もヤコブのように、みんなを明るくするウソをつき通してほしいです。
- みんなの楽しみや希望をうばいたくないので、私もヤコブさんのように行動したい。

→ 裏面へ続く

◇3年生の実践

「二通の手紙」 C(10) きまりを守る

動物園の職員だった元さんは、入園終了時刻を過ぎて入口に来た小学校3年くらいの女の子と3、4歳くらいの弟を「今日は弟の誕生日だから」と泣き出さんばかりの姉の言葉に、親の同伴がないことも承知の上で入園させる。閉園時刻になっても二人が出てこないことに園内は騒然となったが、辺りが暮れかかった頃、雑木林の中の小さな池で遊んでいた二人が無事発見された。

数日後、姉弟の母親から「主人が病気に倒れた後、自分が働きに出ることになり、構ってやれなかったが、あの子たちの夢を大切に思って、わたしたち親子にひとときの幸福を与えてくださったあなた様のことは、一生忘れることはできないでしょう。ありがとうございました。」という感謝の手紙をもらう。

その翌日、元さんは、もう一つの手紙である「懲戒処分」の通告をもらう。元さんは、二通の手紙を机の上に並べて、「この二通の手紙のおかげでまた、新たな出発ができそう」と晴れ晴れとした顔で自ら職場を去っていくのであった。

【生徒の感想】（一部抜粋）

- ・私はルールを重視すると思った。ルールは危険が伴うから禁止されているので、楽しくても事故などがあっては、もともこもないからです。親が仕事でいないことはよくあるので、小さな子たちは、そこは辛いなど共感しました。
- ・自分では良い判断だと思ったことも、時には危険を秘めているので、一言で良いとは言えないとわかりました。
- ・「時には犠牲も必要」という意見に深く納得しました。またどんな状況でも学べることがあるとわかりました。
- ・もし私が元さんと同じ状況で同じ立場だったら、子どもを入れてあげるけど、だれか他の職員さんに付き添いを頼むと思います。子どもの喜ぶ顔が見たいけど、安全も守りたいので、両方できるようにします。
- ・自分だったら入れないけど、元さんはやさしい気持ちも大切だが、ルールを守り厳しくすることも大切と学んだことがわかった。
- ・自分だったら入れてあげると思います。でも先のことを考えないと取り返しのつかないことになるので、しっかり考えて判断したいと思います。
- ・やさしさもいるが、きびしさもいるなと思いました。もしそれで事故が起こるとなると、大変なことなので、よく考えないといけないなと思った。
- ・ルールを守るのか、喜びを選ぶのか、僕には、どちらを選ぶのか難しいです。
- ・元さんが2人への愛情に負けたことにより、結果、職を辞したが、全てを失ったわけではないということがわかった。
- ・時には厳しさを見せることが大事ということ学びました。
- ・1つの判断が人生を変える別れ道だと思った。
- ・やさしさと厳しさの切り替えは大切だと思いました。

